



一般質問

市政をズバリ問う

本定例会での一般質問は、6月13日から15日までの3日間行われ、10人の議員が質問しました。その質問と答弁の要旨をお知らせします。

※原稿は議員本人によるものです。

行政は協働の意識が足りないぞ

田中親彦議員

防災無線の
コミュニケーション活用をせよ

問 現在の防災無線を市民の地域活動の有効な手段として、小学校区や行政区ごとの地域コミュニケーションに活用することはできないか。

総務課長 現在学校や公民館の子局から複数の局に一斉放送はできない。それぞれ親局としての無線機が必要で、新たに学校と公民館への追加を検討したい。

市長 これからの地域おこしにはぜひ必要、当面は親局である市役所で各地域からの放送依頼を受け対応したい。親局の追加はできるのでその方向で考える。

市民に債務は等しく
借金でよいか

問 筑後市の債務残高320億円余、等しく借金とい

う表現は4月の市議選でも論争があった。
市も出前市長室で同じ内容の情報発信である。
市債で歳入不足を補う交付金代わりの対策債と建設費などにあてる事業債との区別。歳出の公債費返済で歳入不足分に使った財源対策債と建設費に使った事業債の区分や、社会資本として整備した有形固定資産と市債残高との対比など、市の財政運営のしくみを市民に正しくわかり易く発信することはできないか。

総務課長 総務省で言う地方自治体の有形固定資産は昭和44年からの投資的経費を減価償却していった累計したものといい、筑後市は行政活動として長期にわたる有形固定資産等の社会資本の整備をしていて、各々の目的についての市債の役割と、その市債残高であることを市民にわかり易く説明をしていきたい。



市内88箇所に設置された固定子局